20170319

人生の核心ポイント（ヨハネ20:30-31）

パズルゲームをご存知でしょうか。パズルゲームをやったことがあるのでしょうか。私は何回かやりましたけれども、ピースの数が結構ある場合はとても難しいです。なぜパズルゲームがそんなに難しいのかといいますと、どこから始めればいいのかわからないし、中心ポイントというものがありません。ピースが全部バラバラだからです。例えば、ポイント、ポイントがあれば、そこを中心にして組み合わせていくようになるでしょうけれども、そういうことが全くないままバラバラのピースだけなのです。それがパズルゲームの魅力でもあるし、また難しさでもあるわけです。神様が私たちに聖書を与えられました。聖書66巻を与えられて、それを読んで理解していくときに、もしかするとパズルゲームみたいに中心ポイントが何もないまま、バラバラのピースを集めるかのようなアプローチをするかもしれません。そうすると本当に同じ聖書なのに、読む人によってバラバラになるしかないものなのです。でも、聖書はそういうものではありません。時代が違うし、また、それを書いた著者もバラバラなのですが、神様が本来の著者でありますので、一貫する内容があるし、核心ポイントというものがあります。ですから、聖書ピースを集めるかのような感覚ではなくて、まず、パズルゲームとは違うのです。核心ポイントがありますので、それをしっかり捉えて、それから、創世記から黙示録までのすべての聖書のパズルをその核心ポイントに合わせて組み合わせていくような感じで聖書を読んでいかなければいけません。そのように聖書を理解して読んでいくようになれば、必ず癒されるようになるし、必ず勝利するようになります。そして、聖書のその核心ポイントこそが、神様の願いでもあるし、それが私たちの人生の核心ポイントにもなるわけです。クリスチャンがなぜ力がないままさまよいつつ、また葛藤からなかなか自由にならないのかといいますと、どれくらい信仰生活をしていたのか、聖書をどれぐらい読んだのか、どれぐらい熱心なのかの前に、そういう人の特徴は核心ポイントがありません。だから、ピースがバラバラになっているかのようで、形にならないし、力にならないわけです。そういう意味で、非常に大切なのですが、私たちは幸い、そういうポイントを捉えていると思います。それを改めて確認し、人生の核心ポイントにしていきたいなと願います。

今日の聖書はとても有名な箇所であるし、そのポイントが何かを私たちに教えている内容です。聖書の一番の核心ポイントは何かといいますと、キリストの他には全く希望などはありませんという内容です。だから、まずそこを捉えていないと、聖書を正しく理解することができないし、人生もバラバラになり、自分なりには努力して一生懸命頑張るのかもしれませんが、実を結ぶことが無理なのです。がんばる前に核心ポイントを捉えるようにしてください。一生懸命、真面目に考えて、研究をする前に、核心ポイントは神様が教えられた通りにまず捉えて、それを軸にしていただきたいと思います。それは、キリストの他にはどこにも何も希望などはまったくありませんということです。聖書は、分厚い長い歴史の内容をそのまま記録して残して、歴史的に立証しているわけです。簡単に、ポイント、ポイントだけを抑えて申し上げます。創世記4章を見ますと、カインのように自分なりに自分の基準と自分のルールに従って、自分のポリシーに従って努力して頑張る事は悪くありませんが、それは問題の解決にならないし、希望につながるものでは無いということが証明されました。創世記６章を見ると、ノアの時代に経済的に想像はるかに超える位の豊かさを誇っていましたけれども、しかしその経済の豊かさは、人生の問題に何の役にも立たないし、希望に何ものでは無いのだということが大洪水によって証明されました。創世記11章を見ますと、 バベル塔のお話が紹介されています。人類の努力と文明の発展、学問の発展、研究、人々が協力し合うシステムなどが紹介されています。まるで天の頂まで届く勢いを持つくらいのものなのです。しかし、そのような発展と研究、人々の心遣いなどが、人生の問題に、また人類の問題に何の役にも立たない、バベル塔のように全部崩れていくようなものなのだということが証明されました。なぜそういうことが記録として残されているのでしょうか。キリストの他には希望がありませんと、そういうことを神様はおっしゃりたいのです。それにプラス、釘を刺すかのように、アブラハムを召されて、イスラエルという特別な神の民、特別な民族を作りました。そこで他の国では見ることができない神様のものすごい奇跡を現したり、炎の柱、雲の柱などで、イスラエルの民族を導いていてあり、そのような歴史がずっとマラキまで紹介されています。

そのイスラエルの歴史が紹介されている理由が何でしょうか。そのように、神様が、新郎が新婦の手を取って導くかのような愛情をもって、奇跡をもって、彼らを大事に、大事に、導いたのにもかかわらず、イスラエルの人たちは、神に立ち返ることがありませんでした。変わらないのです。なぜそのイスラエルの歴史が紹介されているのでしょうか。キリストの他には本当に希望などはありません。それをキリストの他には希望がないのだよと一言でいいはずなのに、一言では全く伝わらないと神様は存知なので、長い、長い歴史を通して証明されました。これ以上の証拠が必要なのでしょうか。それは、その後の歴史にもずっと証明されています。決定的な証拠なのです。キリストである神の御子イエス・キリストがこられたのに、神様の奇跡どころではありません。キリスト本人が自ら肉体を持ってこの世に来られたのに、そのイエスを十字架につけるほどのものが人間なのです。それが神様に選ばれたと自慢していたイスラエルの状態なのです。キリストの他には希望がありません。人間に0.1%でも希望が可能性があるのであれば、キリスト教会は入りません。皆さんが教会に来る理由がありません。多分、いろいろな理由、いろいろな目的、いろいろな願いを持って教会に来られるのでしょうけれども、それを全部消さなければいけません。教会に来る理由にならないものなのです。教会に来る理由がありません。キリストの他には、宇宙に希望などはありません。教会は、キリストを語るところなので来るわけです。満腹になるために、合格するために、病気を治すために来るところではありません。キリストの他には全く希望がありません。これが核心ポイントです。そして、それは裏返しますと、人類が、人間が抱えている問題がどれほど深刻なのかということをお知らせすることなのです。そこが核心ポイントなのです。これを守るべきなのか、素晴らしい話だよね、これは悪いね。そういう話のために聖書が私たちに与えられているわけではありません。どれほど問題が深刻なのか、人が抱えている問題の真相を暴くのがポイントなのです。人は神によって作られたものなのに、神に背いて反逆の罪を犯して、神様から永遠に離れてしまいました。神様を失い、神から離れてしまったということが、どれほど深刻な問題なのか、ここがポイントなのです。その結果、私たちが願ってもいなかったでしょうけれども、目に見えない悪魔、サタンにとらわれて、サタンの奴隷になるしかありませんでした。これがどれほど深刻な問題なのか。一人も例外なく、生まれながら、神の御怒りを受けるべき子らとして生まれ、滅びの運命に閉じ込められて人生を生きるようになりました。その最後は地獄なのです。すべての人は罪を犯したので、一人も例外がありません。これが真相なのです。個人、ひとりひとりの真相であり、人類の真相です。何をもってこれに対処できるのでしょうか。あり得ません。何に頼っているのでしょうか。何を気にしているのでしょうか。何にそんなに魅力を感じ、あるいは、未練たらたらなのでしょうか。何一つ役に立ちません。本当に問題の深刻さがわかっているならば、泣く力もありません。暴れる力もありません。キリストの他にはありません。ああだ、こうだと文句を言う暇もありません。誰のせいだ、これのせいだ、これが悪いからというような余力などもありません。Onlyキリストなのです。これが聖書のポイントなのです。これが神様がおっしゃりたいことなのです。ですから、聖書のポイントは、特に旧約の聖書のポイントは、一点思想なのです。一点、ワンポイント思想なのです。人々が求めていた、頼りにしていた宗教などが全部崩れて一点なのです。すべての人々の理論などが全部崩れて、人々の経験が全部崩れて、人々の自慢や誇りなどが全部崩れて、一点だけなのです。キリストOnlyです。その人が礼儀正しい人なのか、悪ふざけの人間なのか、それも関係ありません。キリストOnlyなのです。何に皆さんの神経が散っているのでしょうか。何にそんなに気が触って、あるいは気にかかって、気になっているのでしょうか。もしかしてキリストOnlyではないのではないでしょうか。過去が気になるのでしょうか。キリストOnlyなのです。これが核心ポイントなのです。だから、最初から女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く。犠牲のいけにえをささげて、処女が身ごもって子供を産む。その名をインマヌエルと言いなさい。どんなにダメな時であっても、それをああだ、こうだと言うことはありません。エジプトで400年間奴隷の生活をしている時にも、女の子孫、犠牲のいけにえ、キリスト、そこだけに希望を託していました。全てが焼き払われて10分の1しか残らない。その10分の1の全部が焼き払われて何も残らない。このような絶望的な状況の中でも、ここでこうなる、ああなるという話はありません。700年後に来られるキリスト、インマヌエルの他には希望がありません。キリストOnlyなのです。何にこだわって、何を気にしているのでしょうか。人の目でしょうか。人が私をどう見るのか、それも二の次の話です。キリストOnlyです。他の何かを気にしていることを病気といいます。だから、病気が治らないのです。「ああ、そうか。キリストの他にはすべてちりあくたなのだね」。その時に癒されます。治療の力が現れます。明日、死ぬことがあってもキリストOnlyです。危機的な状況があるから、キリストがまたどこかに飛んでいってしまったり、そういう事はありません。ヨブのように、全てが奪われてもキリストOnlyなのです。そこから離れることができません。そこが核心ポイントなのです。そこからすべてを改めて組み合わせていかなければなりません。そして、一点、ワンポイント思想なのです。これが聖書の核心ポイントなのです。

そして、聖書の核心ポイントは、その一点しかない、ワンポイントの希望、キリスト、その方が実はイエス様だった、イエス様がキリストなのだ、これが核心ポイントなのです。そのイエス様がキリストなのだという完璧な証拠が、処女マリアから生まれたことであり、イエス様ご自身が語られたメッセージの内容が、今までの律法学者とパリサイ人と全く権威が違う、つまり、神様しか語ることができない御言葉だったのです。それが証拠であり、神にしかできないしるし、奇跡を行っていました。海の上を歩いたという、マジック的なものが問題ではありません。神にしかできないことができるキリストだったのだという明らかな完璧な証拠なのです。そして、証拠の中の証拠が、預言通りに十字架にかけられて葬られ、3日目に死者の中から復活なさいましたことが、イエス様こそがキリストだ、唯一の希望キリストだという証拠中の証拠なのです。その他にも、イエス様の生涯すべてが、キリストが来られるとこうなるのだと聖書に預言されていた全ての御言葉が成就する内容でした。これが勝負なのです。イエス様はキリストなのです。これが聖書の核心ポイントなのです。イエス様がキリストだというのはどういう意味なのかと言うと、神様が私たちに約束されました救いのすべての働きが完全に成就したという意味なのです。イエスがキリストだというのは、預言ではなくて、もう完璧に完全に成就したと十字架の上でおっしゃったように、すべてを完了したということです。本当に私たちのどうにもならない地獄の運命の問題、悪魔のしわざ、罪の問題、神から離れて滅びるしかなかった問題など、一切これっぽっちも残さず全部完璧に解決したというのが、イエスはキリストという意味なのです。イエスがキリストだという告白の意味は、ものすごいものなのです。「キリスト様、来てください。いつ来るのでしょうか」。そういう時代は終わりました。イエスはキリストなのです。すべて変わりました。わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、誰一人父のもとに来ることはありません。神様に会える、永遠のいのちが得られる完璧な全てが成就されました。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ち壊すためです。私たちは、人類を、この地球を、破滅に追い込んでしまった悪魔の頭を完全に踏み砕かれて、そのしわざを完璧に打ち砕かれることになりました。イエスはキリストなのです。キリストは一回ご自分が刺されることによって、私たちは永遠に全うされ、永遠にきよめられた、もう二度といけにえをささげることができないように、すべての罪が完璧に永遠にきよめられ許されるようになりました。イエスがキリストということなのです。これが聖書の核心ポイントなのです。

イエスがキリストなので、私たちに残されている課題は、1つしかありません。Only信仰によって救われるのです。信仰という言葉は、もともとあった単語なので、皆が一緒にしようとするのですが、信仰という言葉は今申し上げました聖書の核心ポイントに基づいて生まれる概念なのです。だから、行いではなくて、だから、その人の品格ではなくて、お金ではなくて、信仰によって救われるわけです。イエスがキリストだから。このただ信仰によってという意味は、何の条件もなしで無条件なのです。どんな条件も関係ありません。どんな過去を歩いてきたのか、勉強ができたのかどうか、どんな家系、家庭から生まれたのか、肌色が何色なのか、頭が良いのか悪いのか、一切関係なく、ただ信仰によって。これが聖書の核心ポイントなのです。ここに本物の自由が生まれるわけです。信仰によってです。そして、条件と関係ないので、誰でも信じればいいのです。無条件、そして、誰でもなのです。これが聖書の核心ポイントなのです。売春婦をやっていた人はちょっと勘弁して、殺人罪で今刑務所の中に入っているものは対象外という話ではありません。無条件です。誰でもいいです。だから、パリサイ人たちは誇りました。だから、世の中の宗教は誇るわけです。宗教が教える内容と真逆の内容を言っているわけですから。宗教はみな5回お辞儀をするよりは、千回お辞儀をした方が効力があると教えるわけです。あなたの心を清めて他の人より善良な人生を歩きなさいと教えるわけです。聖書のポイントはそうではありません。私たちにそのような能力がないことを、問題の真相をご存知が神様が、それらはいりません。今までのそのようなルールや規則や規律等は、全部破って、ただ信仰によってとおっしゃいました。今までの何かのルールなどがごちゃごちゃ混ざっているから、クリスチャンでも神様の力を体験できないし、思う存分、思い切りこの救いのいのちを味わうことができないわけです。引っかかるものがあまりにも多いのではないでしょうか。それが本当に引っかかる条件、材料になるものなのでしょうか。聖書の核心ポイントが外れているのです。聖書の核心ポイントは、無条件、誰でも信じるものは救われるということです。義人は信仰によって生きる。信仰に始まり、信仰に進ませる。これがキリスト教です。今まで間逆の教訓、教えに従って、人生を20年、30年、60年、70年生きて生きてきたと考えれば正解なのです。それを持ってメッセージが聞こえてこない、なんと難しいのか、合わないと言う事は言語道断なのです。私は毎日死ぬよ。私は十字架とともに死んだのだよ。今までの私の知識は全部ちりあくたなのだ。それは自虐ではありません。核心ポイントをとらえたことなのです。今まで人生がずれていたのだな。なぜ一生懸命生きようとしているのでしょうか。ポイントを捉えていないからです。本当にポイントを捉えていると、一生懸命になりません。キリストになります。神様から離れているから、自分で自分を守らないといけないから一生懸命、真面目だったでしょう。それは罪なのです。罪の結果なのです。聖書は、真面目にがんばりなさいとは一言も言っていません。それなのに、教会は、特に日本の教会は、今までの教えに基づいて一生懸命がんばりなさい、真面目に善良な人になりなさいと、重荷を下ろしてものをまた再び負わせるのです。聖書のポイントはそうではありません。頑張るというのはその次の次の話なのです。信じなさい。がんばる能力等は無いのではないでしょうか。頑張ってもダメな真相が分かっていないのか。目覚めなさい。目を覚ましなさい。歴史を見ますと、多くの教会で、最初、自分が今まで求めていたものとわりと近いなと思って教会に来て、真逆の話を聞いて離れていった人が数多くいます。しょうがないのです。しかし、神様に選ばれた者、いのちある者には、この話が聞こえてきます。この核心ポイントを捉えて、それから、創世記で、またピリピの手紙においてこうしなさい、ああしなさいという内容をそこに合わせて解釈していかなければいけません。バラバラになると、いつ完成するかわかりません。完成にはならないし、自分なりには半分ぐらい完成したつもりなのですが、ピース一個間違ってしまうと全部やり直しなのです。それがパズルゲームでしょう。似ているように思えるのです。しかし、はめ込んだけれども、半分以上やったのですが、そのせいで一からやり直しなのです。これが私たちが今までやってきた人生なのです。だから、すべておろして、無にして、聖書が教える聖書の核心ポイント、人生の核心ポイントを捉えるようにしましょう。そこから始めるようにしましょう。

そして最後の一つ、誰でもこのイエス様を無条件に信じるものはいのちが得られます。しかもそのいのちは永遠のいのちなのです。これが聖書の核心ポイントなのです。つまり、どんな人間でも、無条件、誰でもイエス様を信じるものは、その人の人生は作り変えられ、幸いなもの、希望にあふれるもの、祝福の人生に変わるというのが聖書の核心ポイントであり事実です。誰でもイエスを信じるものは、すべての罪と滅びの運命から永遠に解放されて、永遠に聖霊が内住する不思議な神の子どもになり、天の御国に入れるように永遠に完璧に保障されるし、そして、地上を生きる間には、今現在も地上を支配して人々を滅ぼしている悪魔、サタン、暗やみの力を縛り上げる権利が与えられ、天使が動員される身分となり、聖霊のみわざ、聖霊の力、要塞も破る聖霊の力がともなわれる存在に作り変えられます。イエスを信じるものは誰でもです。これが核心ポイントです。ただ信じている人々が、この事実を信じないのです。ここがまず捉えるべき核心ポイントなのです。この永遠のいのちの祝福をまとめますと、世界福音化が可能な存在に作り変えられているということなのです。それが永遠のいのちなのです。

どうすれば良いのでしょうか。今日の聖書にそれが書かれています。信じるものは、イエスがキリストであることを信じるものは、無条件、誰でもです。これが聖書の核心ポイントであれば、これを皆さんの人生の核心ポイントとして捉えなければいけません。パズルを一つ一つ組み合わせようとする前に、一番真ん中のポイントのほうにこの福音を捉えて、それから始めなければいけません。皆さんにとって、皆さんの人生の中で一番重要なポイントは何でしょうか。健康より大切なのはこの福音なのです。皆さんが学んできた学問より、これからの皆さんの進路より大切なのはこの福音なのです。それなのにこの福音が中心ポイントにならずに、健康が、出世が、成功などなどがポイントになっているので、全部がチグハグになるしかないのです。皆さんが悪いからではありません。皆さんは必ず世界福音化が可能な、イエスの血が塗られて、イエスのいのちを持つ尊い存在です。ただ核心ポイントがずれているわけです。そこを取り替えるようにしてください。そして、その福音からスタートするようにしましょう。福音の中にあってすべてを始めるようにしていただきたいと思います。本当にこれが核心ポイントであれば。知識を学ぶ前に、大学に入ってそこで勉強する前に、その知識がああだ、こうだと考える前に、まず核心ポイントが福音なのです。ここから始めると、その学問が再整理されるでしょう。今までの自分の考え方、主張や経験等も全部解釈が変わるようになります。ですから、ここを核心ポイントとして抑えて、皆さんの人生を、この福音と救いを中心にして再整理するようにしていただきたいと思います。どんな過去があったでしょうか。それは結局、キリストの他には全く希望がないということを皆さんに知らせるためにあったものなのです。誰かが良い悪いわけではありません。そして、皆さんの辛い過去は、イエスがそのキリストなので、イエス様を信じてもらうために許されていたものなのです。再整理しましょう。皆さんの人生の中で暗いものは一点たりとも残さないようにしてください。これが本当にポイントを取り替えることなのです。子供がどうなるのか、旦那さんがどうなるのか、そういう事はポイントではありません。福音がポイントです。福音をポイントにして旦那さんと子供を見ると、見方が変わるでしょう。この国が、植民地が、私たちの国がどこにどうなるのか。それがポイントではありません。この福音がポイントなのです。そうすると、国に対する見方が変わります。違うでしょうか。

そして、もう一つ本当にこの福音が人生の核心ポイントであれば、皆さんは無条件、誰でもイエスを信じる方々は、誰も奪うことができない、色あせない永遠のいのちの祝福が自分のものだと言う確信を持ってください。永遠のいのちの祝福を思い出して黙想しながら、それを喜んでください。いつまでどこまで喜べばいいのでしょうか。感謝になるまでです。無条件、感謝になるまでです。死の陰の谷を歩いていても、私が救われたこのいのちの祝福のゆえに、私は感謝せざるをえません。そういう感謝になるまでです。すべての罪が許されて、神の神殿となり、神様がいつまでもともにおられる、そのような不思議な存在になっていること自体が感謝になるまでです。その感謝をもって、その時に初めて神の御言葉が聞こえてくるのです。その時までは、全部自分なのです。自分が中心なので、神の御言葉が、自分の都合に合わせて言ってくれるような、そういうことにしかなっていないのです。御言葉の黙想ができません。自分を無にして神の御言葉を聞かなければいけません。感謝なのです。明日死んでも感謝なのです。この救いの福音を核心ポイントにおいて、神様の御言葉を慕い求めて、御言葉を聞くようにしましょう。御言葉を黙想してください。そうすると、必ずいやしの祝福を体験するようになります。

そして、最後にこのいのち、救いの福音を核心ポイントにして、先ほども申し上げましたように、聖書をそのような目で見るようにしてください。聖書は今も生きています。ただポイントを押さえずに、バラバラピースのように読んでいるから、ときには道徳になったり、ときには負担になる脅しのように聞こえたり、ときには命令のように聞こえたりと言うことになってしまいます。核心ポイントを押さえて聖書にアプローチし読んでいくようにしましょう。そして、この核心ポイントをもって、皆さんの現場、人々を見るようにしてください。そうすると見方が変わるでしょう。なるほど、キリストの他には希望がないことをしっかり知ってもらうために、あの人にああいう問題があるのだね。あの人に必要なのは信仰ではないのか。それを祈るようになります。人をさばいたり人を見下したり比較したり無視したりすることはしません。その人のために祈るでしょう。悪い子とか、良い子とか、私たちの目がこの核心ポイントを捉えていると、悪い人も良い人もありません。皆がキリストの他には希望がない存在なのです。これで現場を見て祈るようになると、約束します。皆さんの能力と環境に関係なく、神の国が臨まれることを必ず体験するようになるでしょう。これが皆さんひとりひとりに、全員に用意されている神様の約束であり祝福です。核心ポイントがずれていることによって、それが今私たちに現れていないだけなのです。これがサタンのしわざなのです。何が正しいかどうかなどは知らなくてもいいのです。まず核心ポイントを押さえない限りは何が正しいかどうかわかりません。パズルゲームの一つのピースに過ぎないものなのです。それで判断できますでしょうか。勝利を心からお祈りいたします。

(祈り)

恵み深い天の父なる神様。神様が分厚い聖書を与えて、そして、そのポイントが何かを私たちに教えてくださりありがとうございます。一人一人が核心ポイントを吟味して、自分の内側で人生の核心ポイントをこの福音、救いのいのちに取り替え、そこから全てを始めることができるようにしてください。本当の自由と生きている神の御言葉が聞こえてきて、現場を生かす答えの主人公になるように一人一人を祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。